



咳が気になる方へ

咳が出るのは実は**咳の神経**が刺激されているからです。咳の神経は、**気管支・肺、鼻咽頭、食道**の3カ所に主に存在します。したがって、咳の原因はこの3カ所の何らかの病気です。以下がその代表的な病気の咳などの症状の特徴です。

① 気管支喘息（咳喘息）

- 夜や朝方に多い咳
- 夜寝れないほどの咳
- 咳症状に波がある（多い日や少ない日がある）
- 風邪薬が効かない咳
- 毎年同じような時期に咳が長引く

などの咳は典型的な喘息症状であることがほとんどです。ただし、昼間だけの咳が喘息症状であることももちろんあります。

② 鼻疾患（鼻炎・副鼻腔炎・上咽頭炎・後鼻漏など）

- 起床後に多い咳
- 鼻水が喉の奥に垂れてくる
- ネバネバした鼻水が出る
- 嗅覚が鈍い
- 鼻水と痰の色が同じ黄色（あるいは緑色）

などは鼻が原因のことが多いです。体質的に鼻炎や副鼻腔炎と喘息は高率に合併します。また、鼻から気管支は空気の通り道で一本道ですので、鼻が調子悪いと気管支も影響を受けることがよくあります。

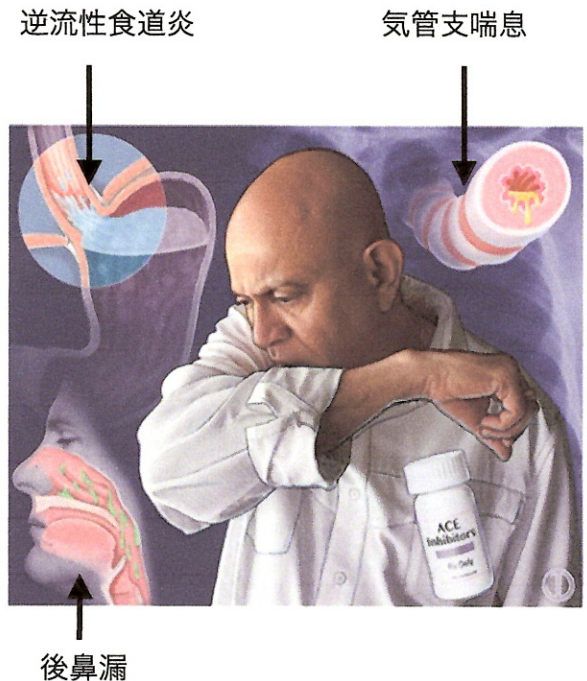
③ 逆流性食道炎

- 会話、食事中や食後、体動時に多い咳
- 横になると出やすい（寝しなや起床直後に出やすい）咳
- 胸焼け、ゲップ、胃もたれ、胃痛などの症状もある
- 以前胃カメラ等で逆流性食道炎を指摘されたことがある

などは典型的な逆流性食道炎による咳の特徴です。ただし、咳以外の逆流性食道炎の症状がない場合も多くあります。

風邪の咳の特徴

- 通常1週間以内に自然に消失する
- 咳止め、風邪薬がそれなりに効く
- コンコンくらいで出だすと止まらないほどではない



咳に関するよくある質問

Q1 喘息は子供の病気ではないのですか？

A 大人になってから発症することがほとんどです。小児喘息の言葉は有名ですが、実は小児喘息の方が少数派でほとんどが成人喘息です。また、何歳からでも発症します。当院最高齢は91歳発症です。

Q2 ゼイゼイしないのに咳だけで喘息なのですか？

A 以前は成人喘息も主な症状が喘鳴（ゼイゼイ）でしたが、最近はほとんどの方の症状は咳です。小児喘息においても咳症状の頻度が増えている印象です。

Q3 検査しないで喘息の診断ができるのですか？

A できます。風邪症状を伴っている場合は、感染管理上呼吸の検査（息を吐く検査）ができません。その際は咳の特徴から喘息の咳を疑い、喘息の基本治療薬である吸入薬を使ってみて、咳が治ればほぼ診断が確定します。

Q4 喘息と診断されたら一生治療が必要ですか？

A その必要はありません。喘息の重症度によります。もちろん治療継続が必要な方も多いのですが、年に1~2回程度しか症状が出ない方の場合は短期の治療で可能なことがほとんどです。

Q5 他院で吸入薬出されて効かないのに喘息なんですか？

A 内服薬と違い、吸入薬は上手に吸入できているかどうかで効果が決まります。薬局で適切な吸入指導を受けてもかなりの確率で、上手に吸入できていないのが現状です。

Q6 咳が軽くなったら吸入薬をやめてもいいですか？

A だめです！完全に咳がなくなるまで継続が必要です。処方された2週間あるいは1ヶ月分の吸入薬は最後まで使い切りましょう。咳が止まったの時点で吸入をやめてしまうと咳が再発することがよくあります。

(文責 院長 大江元樹)